

晴れた日には出かけよう！ ～まちのミリョクを再発見!!～

12

しもちょう かみちょう だし
志茂町と加美町の山車



毎年、春日神社の秋のお祭りに勇壮な山車がくり出します！



お祭りで一番の盛り上がりを見せる宿通りでの競合い

平井の『志茂町の山車』と『加美町の山車』は平成10年(1998)に町有形民俗文化財に指定されました。また同じ年に、山車上で囃されるお囃子も『重松流祭り囃子』として、町無形民俗文化財に指定されています。

志茂町の山車は、明治26年(1893)に地元で建造されました。江戸後期から明治前期にかけて八王子を中心に多摩地区や周辺で数多く建造された八王子様式の山車で、全体に無垢の木を基調とした品性のある装飾が施されています。平井地区で建造・伝承されてきた唯一の山車として大変に貴重なものとなっています。



落ち着いた風情のある志茂町の山車

現在は、唐破風平屋根の山車となっていますが、建造時の姿は一本柱(後建て)人形山車で、今も当時の構造を残しています。山車の頂部には鍾馗さまの人形が乗っていたそうですが、道路に張られた電線が運行の妨げになり、取り払われてしまったそうです。

加美町の山車は、明治初年に砂川村三番組(現在の立川市)の山車として建造され、その後、昭和11年(1936)に加美町が譲り受け再建造されたものです。志茂町の落ち着いた趣とは異なり、漆塗りに金箔の意匠できらびやかな山車になっています。

こちらも現在は唐破風平屋根の山車となっていますが、建造当時の姿は一本柱(後建て)人形山車で、現在もその構造を留めています。全体の構成は、江戸後期に多摩一帯に見られた典型的なものですが、



きらびやかな趣の加美町の山車

山車の梶をきる方式は特徴的な構造をしています。加味町の山車の舵きり方式は、前方の梶きり棒が地面に接し、その上にまたがった人が棒を地面に擦り付けて梶を切る事から「すり棒」と呼ばれています。現在、多摩地域ではあまり見られなくなった貴重な方式です。また、山車の彫刻は、江戸後期から明治初期にかけて活躍した東京本所の彫刻師、後藤徳次郎の作品で、現存する多摩の山車彫刻としては優れた作品の一つに数えられています。

2つの山車は、平成13年(2001)頃に国の補助を受け修復が行われました。志茂町は、修復に当たり取り外された建造当時の部材を貴重な民俗資料として大切に保管しています。また加美町は、当初無垢に金箔であったものを、日光東照宮の修復職人に依頼し、現在の漆塗りに金箔の意匠となりました。

春日神社のお祭りは、毎年9月29日に近い土日に開催されます。同じ日に八幡神社のお祭りも開催され、両方を合わせ「平井のお祭り」として町民に親しまれています。この日は、春日神社の志茂町、加美町、桜木のほか、八幡神社の八幡と三和、総勢5台の山車が平井の宿通りを行き来し、夜には迫力ある競合いも行われます。また、春日神社では国の重要無形民俗文化財の「鳳凰の舞」の奉納も行われます。

アクセス

宿通りへは「中平井」バス停下車すぐです。



日の出WALK(観光マップ)【L-8】

